

[共同研究：限界集落に暮らす人々の医療・介護といきがい]

# 大阪府下の限界集落化が進む公営住宅の 高齢者と同地域内の一般住宅の 高齢者の現状の比較研究

——限界集落化が進む公営住宅住民の現状を把握するために——

福 山 正 和  
石 田 易 司

## 緒 言

平成24年版「高齢社会白書」によると、我が国の高齢者人口は、2,925万人で総人口の23.3%を占めるとの結果が示されているとおり、日本各地で高齢化が進んでいる。大野が「65歳以上の高齢者が集落人口の半数を超え、冠婚葬祭をはじめ田役、道役などの社会的共同生活の維持が困難な状態に置かれている集落」<sup>1)</sup>と定義した限界集落も、国内の山村離島部に多く見られるが、昭和50年代以前に形成されたニュータウンや府営住宅などが都市の中で限界集落となっている。また、公営住宅については原則として低所得者を対象としており、入居については収入額の上限が定められている。今回の研究では大阪府松原市において、限界集落となっている府営住宅と、同地域内の府営住宅以外で生活している高齢者の調査、分析より都市内における限界集落となっている府営住宅の住民への支援の方法を検討する。

## 調査の経過

大阪府松原市は大阪府のほぼ中央に位置し、大阪市の代表的なターミナル、近鉄阿部野橋駅から準急で約10分の、典型的な大阪市の衛星都市である（図1）。大きな工場は製パン工場と新聞社の印刷工場くらいしか見当たらない。松原商工会議所のホームページによると地場産業は金網製造業、真珠製核業、印材加工業となっており、大きな工場、産業の少ない住宅地が多いまちである。松原市の人口はここ数年多少減少気味で2013年現在約12万5000人。一方、高齢者人口は増加傾向にあり、高齢化率はこの調査を終了した2011年10月現在24.3%である（図2）。

こうした状況の中で、松原市高齢介護課では、介護や防災の視点からその実態の調査の必

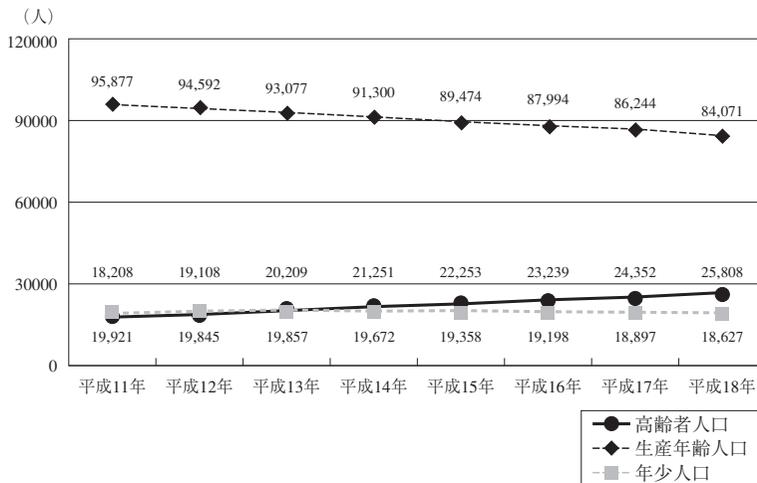
1) 大野晃「限界集落と地域再生」p 25 京都新聞出版センター 京都府 2008年11月25日  
キーワード：限界団地、高齢者、独居、社会参加、孤独死

図1



(松原市ホームページより)

図2



(住民基本台帳：各年10月1日現在)

要を痛切に感じ、厚生労働省が実施する緊急雇用制度を活用し、市民安全課、障害福祉課と協働して、市内の障がい者、一人暮らしなど高齢世帯の高齢者の実態調査を実施した。

調査は、松原市の依頼を受けた桃山学院大学社会学部石田研究室が中心となり、7人の調査員を1年間雇用して実施。分析や報告書の作成は日本福祉文化学会関西ブロックのメンバーによってなされた。

## 調査の方法

高齢者については市内を連合町会単位に5ブロックに分け、高齢者のみの世帯を対象に37項目の調査を2010年10月から2011年7月にかけて順次実施した。調査対象者数は、高齢者18,219人で、回収率は61.7%だった。なお、調査票の統計処理にはSPSS17.0J for Windowsを使用した。

高齢者対象の調査開始時期は次のとおり（同時に行わなかったのは、市が町会との調整を順次実施した結果である）。

2010年11月	新町地区（北新町・東新町・南新町）
2011年1月	天美地区（天美我堂・天美北・天美西・天美東・天美南）
2月	恵我地区（大堀・小川・一津屋・別所・若林）
4月	松原地区（阿保・上田・岡・河合・柴垣・新堂・田井城・高見の里 ・立部・丹南・西大塚・西野々・松ヶ丘）
5月	三宅地区（三宅中・三宅西・三宅東）

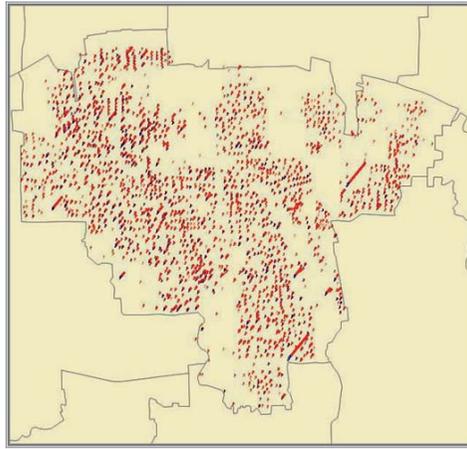
高齢者への配布は、町会、老人クラブ等地域団体の協力によるものを基本に、配布困難な場合については、郵送・ポスティングで行った。回収は全て郵便で行った。高齢者対象調査の配布、回収の数は次の表のとおり。

実態調査集計表

地区	対象者数	配 布				返送 白紙等	差引 配布数	回収	
		町会 配布	老人 クラブ	郵送	ポス ティング			回収合計	回収率
新町	2,672	1,372	888	412		20	2,652	1,519	57.3%
天美	4,696	3,555		1,141		112	4,584	3,042	66.4%
恵我	1,731	1,568		163		37	1,694	1,107	65.3%
松原	8,021	4,222	30	1,219	2,550	135	7,886	4,709	59.7%
三宅	1,099	1,005			94	77	1,022	594	58.1%
不明						47			
合計	18,219	11,722	918	2,935	2,644	428	17,791	10,971	61.7%

今回の高齢者の調査対象者をポイントで表示すると、以下の図のとおりである。高齢者1名を点で表しており、線のようにつながっているのは、一地点に高齢者が大勢いるため、点を積み上げた結果、線のようにになっている。

図3



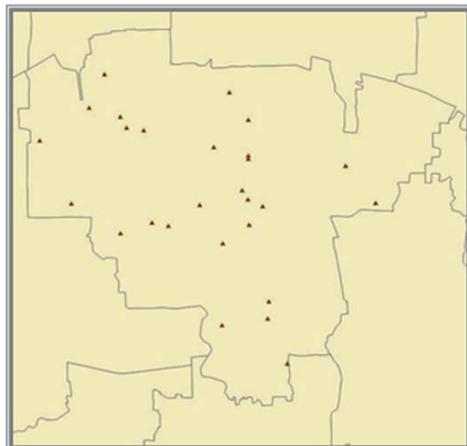
### H 地 域

この研究は、こうして調査した高齢者のうち、同じ市内と言いながらも、明らかに居住環境の異なる5連合町会単位であらゆる項目において、有意な差が出なかったことに疑問を感じたことから始まった。

連合町会単位では、さまざまな環境の小地域が複数存在し、それぞれの問題点が隠れてしまっている可能性があると考え、連合町会内の1地域に絞り、限界団地が進む府営住宅の高齢者と地域の環境を同じくする同一地域内での府営住宅以外の高齢者を比較することで限界団地の住民の特徴を明らかにしようと考えた。

たとえば下図は市内の居宅介護事業所の分布だが、中心部から右半分にはほとんど存在しない。ところがその右半分の上部に集中して調査対象者が存在しているH地域がある。ここ

図4



は大阪で開催された日本万国博覧会の時期に入居が始まった府営住宅で、エレベーターのない5階建や2階ごとにしかエレベーターが止まらない高層住宅で象徴的に表される高度経済成長期に建てられた2DKの住宅である。「限界団地」などという言葉が最近見られるようになったが、高齢化率の非常に高い、電車の駅から遠い、買い物に不便、医療・介護の施設の乏しい地域である。

また、実際に筆者が実地調査やインタビューの際にH地域に足を運んだが、松原市にある唯一の準急行停車駅で最も大きな駅から筆者の足で徒歩15分程度であり、また、途中高速道路が走る大きな道路を渡らなければならず、市役所などの市の中心となる施設も駅前にあることから、高齢者にとっては不便な環境といえる。

今回の当該地域（以後H地域）に在住する高齢者のデータのみを抜き出し、集計及び府営住宅の住民と同地域の府営住宅以外の住民の比較を行った。今回のH地域の研究においては、府営住宅住民が178名、府営住宅以外の住民が413名の計591名の分析を行った。

### 調査の結果

この府営住宅に暮らす高齢者と市域全体、あるいはH地域の府営住宅以外に暮らす高齢者の違いを明らかにすることで、「限界団地問題」の解決の方法を探ろうとして、この研究が始まった。今回の研究ではH地域に在住する高齢者のデータのみを抜き出し、再度集計し、府営住宅の住民と同地域の府営住宅以外の住民の比較を行い、限界集落化した府営住宅の現状を理解し、問題点を明確にすることを目的とした。また、質問紙調査だけではわからない問題点等を明らかにするため、同公営住宅の町会長や、サロン活動のボランティアにもインタビューを行った。

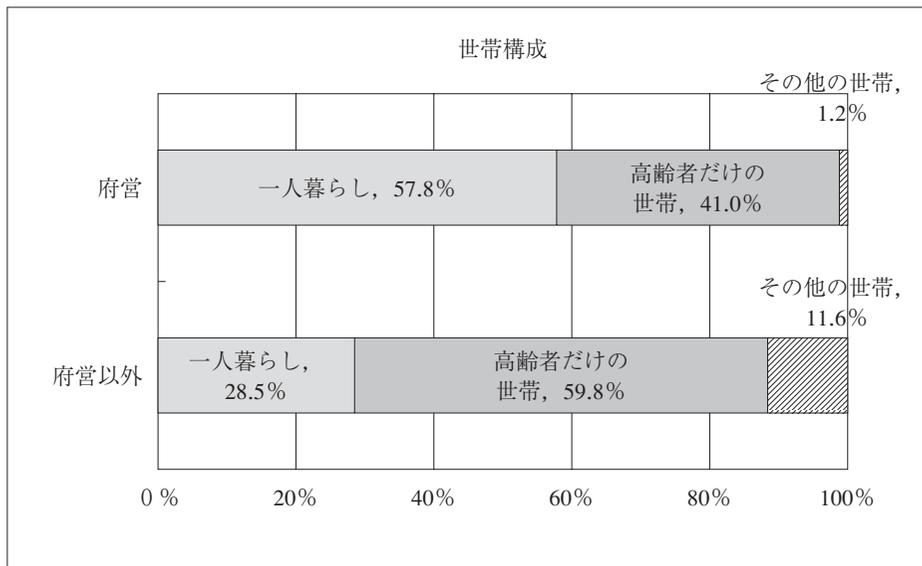
#### H地域の高齢者世帯の世帯構成

H地域の府営住宅の高齢者と府営住宅以外の高齢者について各項目についてクロス集計を行い、 $\chi^2$ 検定を行った。その結果、府営住宅の高齢者と府営住宅以外の高齢者の世帯構成について、府営住宅は単身高齢者が57.8%と半数以上の割合であるが、府営住宅以外の高齢者世帯は単身世帯が28.5%と世帯構成に大きな偏りがあることがわかった。そこで、今回、府営住宅に住む高齢者の特徴であるのか、高齢者の単身世帯の特徴なのかを明らかにするため、松原市全体の調査を単身世帯と単身世帯以外のクロス集計を行い、 $\chi^2$ 検定を行い、分析を行った。

H地域の府営住宅に住む高齢者と府営住宅以外に住む高齢者との比較によって有意差が出た項目は下記13項目である。

- ・ 要介護認定の状況
- ・ 健康状態

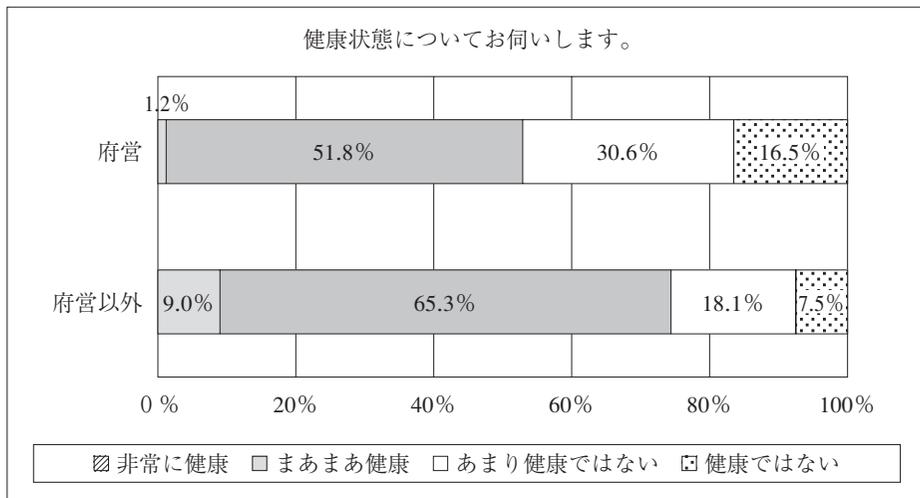
- ・週1回以上介護保険サービスを利用しているか。
- ・1週間に1回程度の身内の訪問があるか。
- ・この1年間に転倒したことがあるか。
- ・横断歩道を青信号の間に渡りきることができるか。
- ・地域行事に参加しているか。
- ・習い事や生涯学習などに参加しているか。
- ・毎日の生活に満足しているか。
- ・毎日が退屈だと思ふことが多いか。
- ・生きていても仕方がないと思ふ気持ちになることがあるか。
- ・あなたは災害時に地元支援団体や災害ボランティアによる支援を希望するか。
- ・前期高齢者か後期高齢者か。



### 健康状態

健康状態について調査対象者本人がどう感じているかを質問した「健康状態についてお伺いします。」の質問に対して、府営住宅に住む高齢者は「非常に健康」、「まあまあ健康」を合わせて、53.0%。府営住宅以外に住む高齢者は同様に74.3%であり、0.1%水準で有意差が見られる。

この結果だけであれば、府営住宅の住民の健康状態は悪いといえる。しかしながら、「高血圧」、「高脂血症」、「心疾患」、「脳血管性疾患」、「糖尿病」の5種類の病気について、持病があるかどうかの設問、また、「最近1年以内に入院しましたか」、「半年間で2～3キロの体重減少がありましたか。」の健康に関する項目についての質問には有意差が見られず、一



概に府営住宅の住民の健康状態が悪いとはいえない。本人が健康と感じていない人の割合が府営住宅居住者のほうが高いといえる。ここにH地域内の府営住宅居住者の一つの問題がうかがえる。

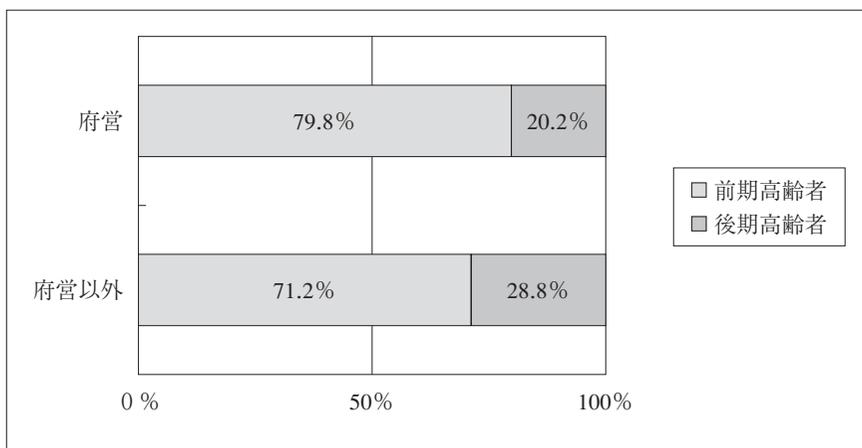
また、松原市全体の調査の結果を見ると、「非常に健康」が6.7%、「まあまあ健康」が61.1%となっている。

### 年齢構成

インタビューでの調査では、この府営住宅は大阪で万国博覧会が開催された1970年頃に建築され、若年夫婦を対象に入居者を募集していたため、地方から出てきた若者で世帯を構えた人の入居が多かった。

建築された1970年ごろ入居した若年層の人たちが引き続き生活をしている。

また、近年の耐震の調査で耐震性の問題があり、新たな入居者を募集することができない



こともあり、この団地の入居者の構成の変化はあまりない。そのため、1970年ごろ若年層だった人たちが、20代の若年層がそのまま40年の年齢を重ねたこともあり、前期高齢者が8割と非常に多くなっている。今回調査した市全体の結果では、前期高齢者が54.3%、後期高齢者が45.7%ということから考えると、この地域は前期高齢者が非常に多い地域と考えられる。このH地域の府営住宅に住む高齢者と府営住宅以外に住む高齢者の前期後期の割合を $\chi^2$ 検定した結果5%水準で有意差が出ている。

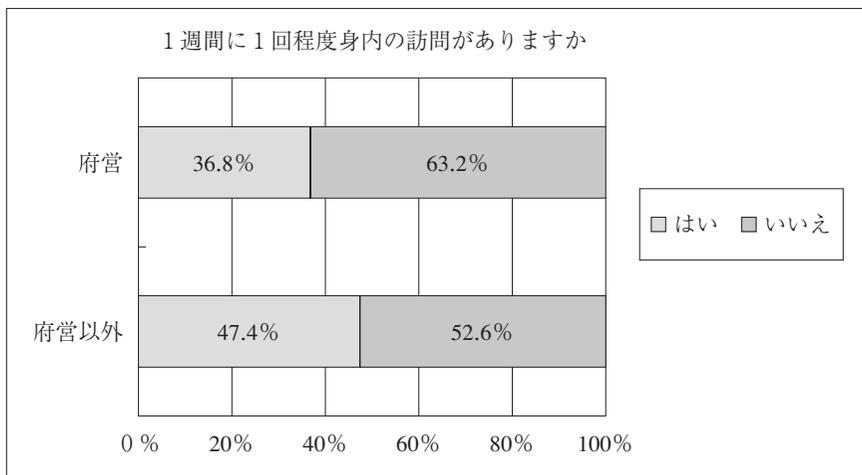
### 身内の訪問

入居時の条件から、彼らには近隣に親類等がないことが考えられる。

また、部屋のつくりも2K、2DK等の比較的コンパクトなつくりが多く、子どもが成人した後、一緒に生活をするスペースを取ることも難しく、子どもの家族が訪ねてきても、大人数が過ごせるスペースがない住居環境である。

「1週間に1回程度身内の訪問がありますか。」という問いに対して、「はい」と回答したのは府営住宅に住む高齢者が36.8%で、府営以外に住む高齢者が47.4%。 $\chi^2$ 検定では5%水準で有意差が出ている。

松原市全体の調査では、「1週間に1回程度、身内の方の訪問がありますか。」という質問について、47.7%が「はい」と回答しており、府営以外の住宅に住む高齢者の回答割合の特徴と一致する。また、松原市全体の調査では同質問に「はい」と回答した割合が、「一人暮らしの高齢者」は50.3%、「高齢者のみの世帯」が45.2%となっており、上記のインタビュー内容も考えると、身内の訪問が少ないのは、この府営住宅の特徴であると考えられる。



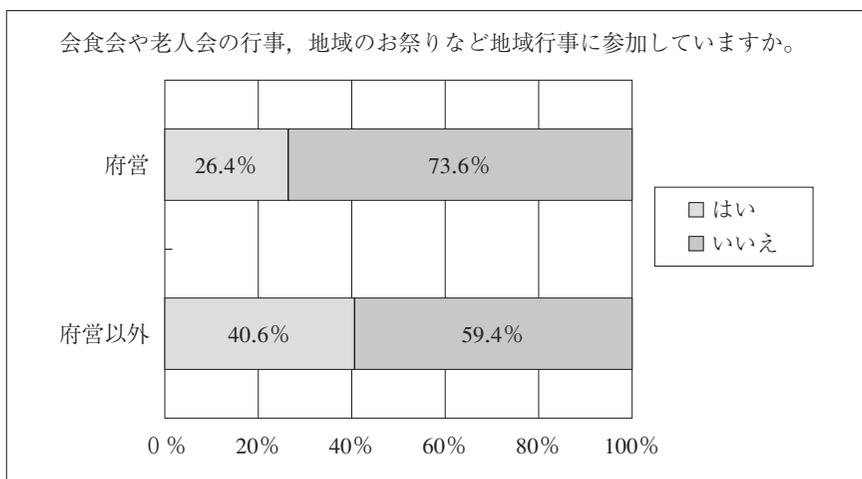
### 地域行事への参加

また、「会食会や老人会の行事、地域のお祭りなど地域行事に参加していますか。」という

質問に対して、府営住宅に住む高齢者では、26.4%が、府営住宅以外の高齢者では、40.6%が「はい」と回答しており、 $\chi^2$ 検定では0.1%水準で有意差が出ている。

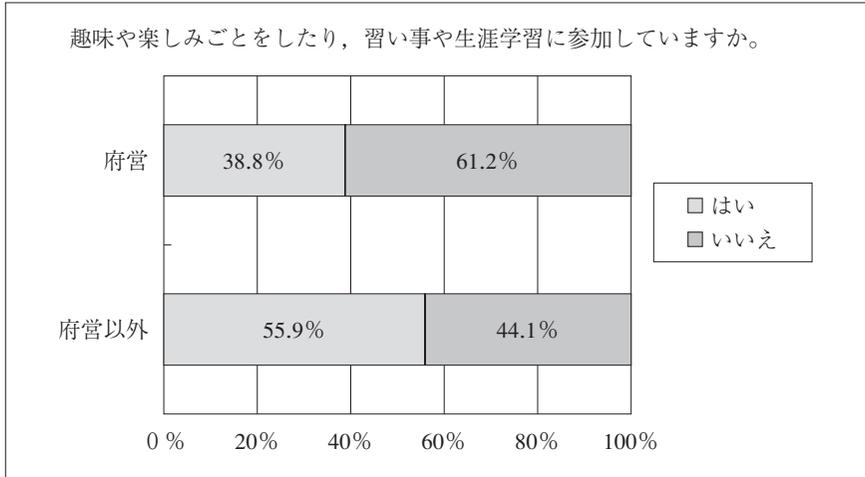
松原市全体の調査の結果では、全体では、参加していると回答した人が、35.4%であった。また、世帯構成によるクロス集計後の $\chi^2$ 検定では有意差はなかった。そのため、この府営住宅で参加している人の割合が有意に低いのは、特徴的であると考えられる。そのため、インタビューで確認したところ、町内会が中心となって、サロン活動を行っているが、参加する人は固定しており、新たな人が参加することはあまりないとのことであった。また、サロン活動の会場は以前府営住宅の管理人室であった部屋を改造して使用しているとのことであった。

筆者がインタビューで訪れた際の感想として、他の人との距離が近く、人とのつながりは作りやすい反面、知らない人と一緒になった場合の距離としては近すぎると感じられる。インタビューに回答いただいた方も「もう少し、スペースを改良したいが、改造することもできない。」と筆者と同じ思いを抱いているようである。また、同府営住宅には、町内会と老人会が別々に存在するが、同じような年齢構成であるにも関わらず、所属している人も全く別で、2つの会に交流もなく、自分が所属しない会の行事に参加する人はいないとのことである。



### 学習活動への参加

「趣味や楽しみごとをしたり、習い事や生涯学習などに参加していますか。」という質問に対して、府営住宅に住む高齢者では、38.8%が、府営住宅以外の高齢者では、55.9%が「はい」と回答したおり、 $\chi^2$ 検定では0.1%水準で有意差が出ている。また、松原市全体の調査の結果では、「はい」と回答した高齢者は48.5%であり、府営住宅に住む高齢者よりも10ポイントほど高い結果が出ている。

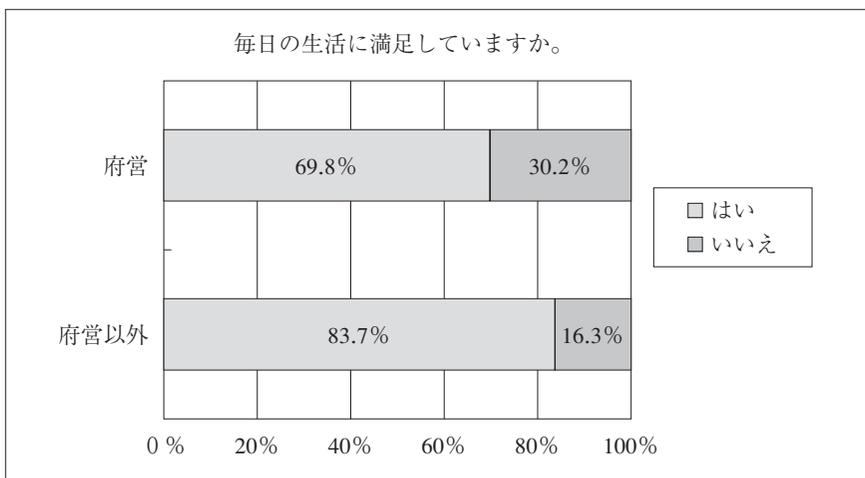


ただし，この項目については一人暮らし高齢者と高齢者のみ世帯の  $\chi^2$  検定の結果も0.1%水準で有意差が出ていることから，一人暮らし高齢者の多い府営住宅住民に影響を及ぼしている可能性がある。

上記，3点（身内の訪問，地域行事への参加，学習活動への参加）の結果より，今回，調査した府営住宅の住民に関して，社会的なつながりのある活動や趣味の活動が消極的であるといえる。

### 生活の満足

さらに，「毎日の生活に満足していますか。」という問いに対して，府営住宅に住む高齢者では，69.8%が，府営住宅以外の高齢者では，83.7%がはいと回答したおり， $\chi^2$  検定では0.1



%水準で有意差が出ている。松原市全体の調査でも79.5%が「はい」と回答している。

ただし、この項目については一人暮らし高齢者と高齢者のみ世帯の $x^2$ 検定の結果も0.1%水準で有意差が出ていることから、一人暮らし高齢者の多い府営住宅住民に影響を及ぼしている可能性がある。

同様に「毎日が退屈だと思ふことが多いですか。」「生きていても仕方がないと思ふ気持ちになることがありますか。」という質問に対しても有意な差が出ている。

ただし、これらの項目については一人暮らし高齢者と高齢者のみ世帯の $x^2$ 検定の結果も0.1%水準で有意差が出ていることから、一人暮らし高齢者の多い府営住宅住民は当然退屈していると言える。

## 結 論

今回の調査の結果H地域の府営住宅住民は府営住宅以外の住民に比べ、以下のことがいえる。ただし、●の項目については、一人暮らし高齢者と高齢者複数名世帯の高齢者との比較においても同様の有意差が見られるため、一人暮らし高齢者の特徴ということも否定できない。

- 不健康であると感じている住民の割合が多い。
- 1週間に1度以上身内の訪問がある住民が少ない。
- 地域の活動に参加している住民が少ない。
- 趣味や楽しみごと、習い事や生涯学習をしている住民が少ない。
- 毎日の生活に退屈し、満足していない住民が多い。

このことから府営住宅の住民については、社会的つながり、趣味等の余暇時間への満足が低いと考えられる。ただし、松原市の一人暮らし高齢者の特徴も類似している。しかしながら、府営住宅の住民については、身内の訪問が少ないという点で、より他者とのつながりが減少していると考えられる。今後、他者とのつながりという点を支援することで、生活を充実させ、そのことにより、健康だと感じる人、生活の満足を感じる人が増えてくるような施策が必要と考えられる。

今回、府営住宅と府営住宅以外のH地域に焦点をあて、分析を行った。今後は、他の地域での比較も行い、高齢化の進む公営住宅の住民への支援について更なる検討を行っていく必要がある。

(2013年4月1日受理)

## Senior Citizens in Public and Private Housing: A Comparative Study of Marginal and Semi-Marginal Villages in Osaka

FUKUYAMA Masakazu

ISHIDA Yasunori

Senior residents of public housing in Japan—the fastest aging society in the world—experience different life challenges from those of private housing. What are the living conditions and characteristics of such seniors in public housing? This study compares the lives of senior citizens in public housing built 40 years ago and those in private housing in a district of Osaka. We conducted surveys, sponsored by the municipal district, with seniors living there between October 2010 and June 2011. For this paper, we analyzed the data from marginal and semi-marginal villages there: the totals of 178 responses from seniors in public housing and of 413 responses in private housing. Compared with seniors in private housing, seniors living in public housing show significantly 1) poorer health conditions and 2) less frequent communication with their family. In addition, significantly fewer of them 3) participate in community activities such as festivals and senior clubs, 4) have daily recreational activities like hobbies and learning activity programs, and 5) feel satisfied with their everyday life. The results 3), 4), and 5) are due to the large number of senior males living alone in older public housing; these are shared characteristics of solitary senior males in the entire district. To conclude, the findings suggest that it is important to encourage seniors to engage in community networking and participate in social activities. A more active social life may help mitigate suffering caused by accidents, disease, and natural disasters.